

第1回 奈良市「持続可能な観光」検討懇話会	
開催日時	令和5年9月14日（木）午前10時から12時まで
開催場所	奈良市役所中央棟5階 秘書広報課横会議室
参加者	青木 真郎 [(一社) サステナビリティ・コーディネーター協会] 澤柳 正子 [(株) リクルート ジャらんリサーチセンター] 下谷 幸司 [奈良市旅館・ホテル組合] 高橋 一 [(公益) 奈良市観光協会] 原田 隆太 [奈良ホテル] 二神 真美 [名城大学] 本保 芳明 [国連世界観光機関 (UNWTO) 駐日事務所] 溝口 シェリー [JW マリオット・ホテル奈良] 峯川 郁朗 [奈良商工会議所] 大和 里美 [奈良県立大学] ※50音順、敬称略
担当課	観光経済部観光戦略課
開催形態	(非公開の理由) 情報公開条例第7条第3号 具体的な非公開の理由等
	非公開 企業の経営等に関わる情報もあることから、公にすることにより利益を害する可能性があるため。また、率直な意見交換が妨げられる可能性があるため。
意見を求める内容	1 奈良市の持続可能な観光に向けた課題/強みは何か 2 奈良市が目指すべき持続可能な観光地とは何か
概要	<p>【座長及び副座長の選任】 開催要領に基づき、メンバーの互選により本保氏が座長に選任され、本保座長により、二神氏が副座長に指名された。</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGs あるいは持続可能性に取り組んでいないと、事業のパートナーとして認められないという流れが強まっている。 JSTS-D 等を用いて、奈良市の取組をセルフチェックし、現状を把握すべきである。方針はあるが実行されていないことをモニタリングすることや、改善していない、PDCA サイクルを回していないところがあれば、何が課題になってくるのか絞った議論をするというと思う。 持続可能な観光とは住民の視点から考えることだと思う。観光地にとって、観光客はマイナスだという受け止め方もあるかもしれないが、そこでしっかりとしたブランディングすることが、長期的な奈良の観光の飛躍につながるという合意形成ができるかどうかの一つのポイントになる。

- ・奈良市の宿泊者数の少なさは大きな課題で、人との接点が薄くなってしまっている。滞在が長くなると地域との接点が増え、暮らしが分かり、日本人の保存食等の知恵や知識をインプットする機会にもなって、海外の方からすると先進的だと思う。
- ・奈良は昔からある町なので、その暮らしや自然、食文化、知恵などを、世界が望んでいると思う。
- ・奈良市の人口 36 万人のうち、観光地区の住民は 5、6 万人であり、住んでいる地区によって住民の意識はかなり異なると思う。広い意味での奈良市全体の観光を論じるのであれば、一番大事なことは、観光というものに対するコンセンサスを得ることである。
- ・奈良に 2 泊、3 泊していただくためには、奈良市内の観光地だけでなく、南の方の観光地等とも連携して、県全体を世界の観光地として推進することが必要である。
- ・ならまちで観光客が増えてきて、それをよしとする住民と、騒音や混雑、ごみの問題も発生して観光客はいらぬという住民で二極化している。地域の方々へ持続可能な観光の実現のための取組の説明をして、理解を得て、連携することが大切。
- ・MICE の提案依頼書に SDGs に関する取組の項目があり、SDGs に取り組んでいないホテルは利用しない、取り組んでいないデスティネーションは選定されないというのが世界の基準になっているので、取り組んでいきたい。
- ・奈良は日帰りで行ける観光地というイメージが強いが、一度奈良に泊まって評判が良く、奈良を宿泊地として考えていただいている旅行者もゼロではない。実際に宿泊すると分かる魅力や楽しみ等、辛抱強く粘り強く続けることで宿泊者を増やしていけると考えている。
- ・歴史や文化、暮らし、自然、食など、大仏や鹿以外の魅力も活用して、ブランディングして、発信すべき。
- ・「世界に認められる」というのは一体どういうことなのか、国際都市としての奈良市はどのような位置付けにあるのかということも検討するべき。
- ・奈良のブランディングを行うにしても、世界の中、日本の中での奈良の役割を考えることが必要であり、持続可能な観光地ということでの他の地域との差別化、どのようなブランド・アイデンティティを目指すのかを考えることが、最初の出発点。